

口頭発表

## 脳出血後遺症軽減・再発予防のための乗馬活動

慶野宏臣<sup>1)\*</sup>, 慶野裕美<sup>1)</sup>, 高道美智子<sup>2)</sup>

1) なつか乗馬療育研究所

2) 京都山城総合医療センター

## Implementation of hippo-assisted rehabilitation for patient with cerebral hemorrhage.

KEINO Hiroomi<sup>1)\*</sup>, KEINO Hiromi<sup>1)</sup>, TAKADO Michiko<sup>2)</sup>

### 目的

右被殻部脳出血を起こした患者に、急性期対応リハビリテーション (以下リハビリと略記)、回復期リハビリ、そして自宅での自主リハビリの効果を高めるために、馬に関わる活動を組み込んだリハビリプログラムを考案実践した。

### 方法

早期リハビリ開始；出血が停止を確認し、病状診断後すぐにリハビリを開始した。

リハビリへの意欲付け；「馬に関わる活動ができるまでに機能回復したい」との意欲を維持し、その意志を高められるようにリハビリプログラムに反映させた

安全への配慮；再発防止と残存する動脈瘤破裂防止のため、随時血圧を測定しながらリハビリを実施した。転倒防止と安全確保の工夫を凝らし、対応できるような馬を調教した。

### 経過と症状

対象者；発症時 72 才男性、自家で 2 頭の馬を飼育している。

発症経過；2015 年 1 月に右被殻内出血。医療センターへ緊急搬送、検査 (出血部位と範囲の特定、出血停止の確認、動脈瘤確認)、診断 (左上肢脱力、左顔面麻痺、嘔吐、言語不明瞭、日常行動全廃)

当日に急性期対応リハビリ開始 (出血停止確認できたのですぐにリハビリ開始して欲しいと本人および家人が要望)

### 1 月より急性期リハビリ

起床姿勢保持機能の誘導と強化、立位保持の誘導と強化、立位・歩行支持装具を使つての歩行訓練、発語

訓練と言語経路の検査、作業療法による左手機能の回復と強化 (パソコンをブラインドタッチで素早く入力できることをリハビリ目標にする)

薬物治療；血管拡張剤と利尿剤の併用

### 2 月より回復期リハビリ

当初症状；車椅子で移動、手摺を使って歩行、ゆっくりとキーボード操作 (左第 4, 5 指の無自覚タッチ多い)、言語は「う」「い」が不明瞭、「う行、ま行」が不明瞭。(言語経路および記憶野に障害ない事が確かめられた)

リハビリにあつての本人希望 (2, 30 度の傾斜有る凹凸斜面で 4, 5kg の馬糞を持ち運べる歩行能力の回復、馬の世話が可能な体力とバランス能力回復、PC 入力可能な手指技巧性回復)

リハビリ内容；自由歩行の確立、遠距離・不整地傾斜地歩行の確立、3 ~ 5kg の負荷をかけた階段の昇下降、上行・下降のトレッドミル歩行、歩行速度の向上、言語の習熟と作業療育的活動は自主性に任される。

### 3 月～現在 自宅での自主的リハビリ

当初症状；体幹左傾き、左足を引きずつての歩行、バランスの悪さ、つまずき、注意力の狭さ、左顔面の脱力、筋肉および頭脳の強い疲労感

### 自宅でのリハビリ活動

再出血予防のため、血圧下降に寄与する薬剤の継続服用

状態監視のため、起床時および活動後随時血圧測定を心がける。主治医による月 1 回の定期検査を受診。半年ごとに頭部 MRI 撮影し、脳神経外科医の診断を

\* 連絡先：Keino9036@myv.ne.jp 〒 619-1401 京都府南山城村童仙房大岩 4

受ける

活動に関わる安全性の確保；馬の世話にあたって、過剰な無理を生じないように留意した。馬飼料の移動として30kgの干し草を多量に持ち運ぶのは困難なので、業者に食糧庫の中にまで搬入依頼した。中腰で馬の足を確保しながら爪掘りや蹄の手入れをするのは不可能なので、園芸用のキャスター付座椅子に座って馬の足を手入れできるように馬が足を膝の上に載せて停止しているように調教した。斜面は粘土質なので鋏を打ち込んだ作業靴を履き、極めて滑りやすくなる雨後および凍結時には、靴底に簡易アイゼンを装着した。

週1回を目標に乗馬した；基本的条件はゆったりとした気持ちを保ちながらの乗馬とした。馬上での自由度を高めるため、すべて引き馬で行った。体幹バランス向上を目指した馬上体操、多様で急激な経路変動、不定期な歩行速度の変動、発語訓練のための馬上での歌唱などを実施した。

#### 効果と現状

起床時高血圧が続き、作業後、入浴後などの最高血

圧は150～130mmHgの範囲で推移していたが、乗馬後は多くの場合120mmHg以下となり顕著な血圧低下効果が認められた。現在は薬剤効果も表れ日常的に130mmHg範囲に留まり再発防止効果が得られている。

退院時に見られた後遺症は完解には至らぬが、日常活動にはほとんど支障なくなった。

#### 考 察

基本的な条件である（早期開始、安全課確保、意欲維持）に留意しながらリハビリを実施した。目標を「乗馬活動の継続」とすることで、綿密なリハビリ計画が立てられ、負荷の大きなリハビリにも意欲的に参加でき、大きな効果が得られたと推測される。出血停止確認後速やかにリハビリ開始したことで、筋力低下が起こらず順調に機能回復が進んだ。

ゆったりとした乗馬活動により最高血圧が顕著に低下し、脳出血再発防止に効果あったと思われる。